

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年5月17日

No.13 (合同No.3)

校長 野口 邦彦

GIGAスクールいよいよ運用開始

「教えて」「いいよ」が言える関係づくり



「GIGAスクール構想」の運用が始まりました。本校でも学年毎に運用を開始しています。何分、初めての試みであり、これから試行錯誤しながら、よりよい活用方法をみんなで研究していければと思います。今回は、実際に活用していく上で、私が大切にしていきたいポイントをお話したいと思います。



それはつまりタブレットの操作についてです。以前も話しましたが、GIGAスクールの重要性や可能性はわかりつつも、いざ操作となるとICT機器が苦手な人にとっては、不安が付きまとうもの。この不安の解決方法は、とにかく使いながら「トライ&エラー」をくり返し、ICT機器に慣れていくしかありません。まずは使ってみてください。そして、色々な活用方法を試してみてください。学校としても「GIGAスクール推進委員会(教師側)」「情報委員会(児童側)」を立ち上げ、ただ一人で悩むのではなく、みんなで知恵を出し合いながら考えていけるシステム・場をつくっていきたくて考えています。

GIGAスクールの推進していく上で、私がもう一つ大切にしたいポイントは、校内に「教えて」「いいよ」と気軽に言える人間関係づくりだと思います。これは今まででもあったことですが、ことタブレットをみんなが使うようになると、これからもっと大切になってくるポイントだと思います。タブレットを操作する上でわからないことがあったら、まず教本やネット等を使って自分で調べてみる、これも確かに大切です。でも実際には、使っている最中に誰かに聞きたいということもたくさんあるはずです。そんな時に気軽に「教えて」「いいよ」という関係をつくっていくことは、校内でGIGAスクールの推進する上で、重要な要素であると思います。そして、これは先生同士だけでなく、児童同士の中にも強化していかなければいけない関係でもあります。

台湾のデジタル担当大臣であるオードリー・タンさんは、こんなことを言っています。「ICTは機械と機械をつなげるが、デジタルは人と人をつなげる」と。オードリー・タンさんの言葉には、これからの世界の示唆に富んだものが多くあり、その紹介はまたの機会にすることとして、今回は先程の「デジタルは人と人をつなげる」を取り上げたいと思います。もちろん、その意味するところはもっと深いものがあると思いますが、その初歩的なものとして「教えて」「いいよ」の関係づくり、これも含まれているのではないのでしょうか。

学校の大きな目的は、人と人とのつながり(コミュニケーション)を学ぶ場です。タブレットの導入は、決して人を孤立させるものではなく、人をつなげるものでなくてはなりません。タブレットが導入されるからこそ、今まで以上に互いの関係を大切にする。タブレットが人と人をつなぐものとして、一小で生かされればと思います。